

アメノヒボコ
と宍粟

『播磨国風土記』（以下、風土記と略す）には、伊和大神をはじめ多くの神々が登場するが、今回は風土記以外の史料にも現われ、宍粟郡との関わりが深い天日槍命（以下、ヒボコと略す）の伝承について紹介することとしたい。

『古事記』応神天皇の段では、新羅の国主の子ヒボコは妻の祖先の国である難波に向かおうとしたが、地元（難波）にさへぎられて但馬国に留まったという。この時、珠二貫、四種の領巾（飾り布）・二種の鏡といった神宝をもたらししている。

『日本書紀』垂仁天皇三年の条では、新羅の王子ヒボコは船に乗って来て播磨国に泊まり、初めは宍粟邑にいたという。天皇は宍粟邑か淡路島の出浅邑での居住を許したが、ヒボコは諸国を巡って心にかなう土地を賜りたいといって、宇治川をさかのぼって近江国にしばらく住

み、さらに若狭国を経て但馬国に住処を定めたと伝える。ここでも珠・刀子・槍・鏡・神籬（祭具）・大刀などの神宝を献上品として携えている。

一方、風土記においてヒボコが登場するのは、揖保郡一か所、宍粟郡六か所、神崎郡二か所であり、いかに宍粟郡との関わりが深いかがうかがえる。

揖保郡の条では、韓國から渡来したヒボコは揖保川の河口まで来て、葦原志許乎命に宿を求めたが、彼は上陸を許さなかった。ヒボコは、剣で海水をかき回して固めそこを宿所としたため、葦原志許乎命はその威勢に恐れをなしている。

宍粟郡の条では、比治里の川音村、奪谷、高家里、柏野里の伊奈加川、雲箇里の波加村、御方里の黒土志爾嵩で、葦原志許乎命・伊和大神と国占めの争いを繰り広げ、最後は但馬国の出石の地を占めることとなっている。

史料によって説話の内容に違いがあるが、おおむね次のように伝承を要約できるであろうか。すなわち新羅国の王子ヒボコは船に乗って渡来し、初めは播磨国の揖保川流域に居を定めようとしたが果たせず、宇治川をさかのぼって近江国にしばらく居住し、さらに若狭国を経て

最終的に但馬国に落ち着くころは共通している。ちなみに但馬国の一宮である出石神社には、いうまでもなく天日槍命が祭られている。

もとより伝承の域を出るものではないが、以上の説話から、ヒボコが朝鮮半島からの渡来集団の象徴的な性格を持つこと、航海技術に巧みでヒボコ（日槍）の名は優れた武器を連想させること、珠・領巾・鏡・刀剣などの神宝を駆使する呪術者のな性格をまとうことなどの多様な姿が浮かび上がってくる。また、その移動経路から新来の土木技術や須恵器生産、さらには古代の製鉄遺跡との関わりを指摘する説もあり、ヒボコ伝承と宍粟郡との関わりがあらためて注目されることである。

一宮生涯学習事務所 田路 正幸



▲葦原志許乎命、天日槍命が祭られる御形神社

おいでよ 図書館へ



宍粟市立図書館 ☎62-4620
山崎町鹿沢 81

図書館の利用について

貸し出しはひとり5冊まで、期間は2週間です。

開館時間は午前10時～午後5時30分です。



今月のオススメ

生命の逆襲

著者/福岡 伸一

虫が光に集まるわけ、巻貝の成長の仕方など、私たちが日常出会う何故？を生物学者である著者がわかりやすく綴ったエッセイ集。驚きが沢山つまっています。



星と暮らす。

著者/藤井 旭

美しい星空写真とともに、星の楽しみ方から神話・行事にまつわる星の話や歴史的な天文現象についてなど、様々な観点から星と人の関わりを紹介しています。

図書館カレンダー

□ 休館日
【開館時間】午前10時～午後5時30分

日	月	火	水	木	金	土
						9 10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

編集後記

ちくさ高原のゆり園に行ってきました。☎が行ったのはオープン初日の7月13日、開花は5分咲き程度でしたが、リフトで山腹まで登ると、一面にゆりの花畑が広がり、その先には見渡す限りの山々、高原の涼やかな風も相まって爽快な気分を感じさせてくれました。

これまでの夏の高原といえば、山歩きのハイカーやツーリング途中のバイクが数台いる程度の少なさみしいイメージでしたが、今年の夏は、これまでにない賑わいをみせ、その効果は沿道の観光施設などにも波及しています。これからも、宍粟の新名所「ゆり園」をよろしく願います。

☎